

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



1 活動のテーマ

< テーマ番号1 >

【5歳児】日本や世界をしよう ～身近な食べ物から探究する～ 担当教諭: 西村佐知子

< テーマの設定理由 >

当園では、3年前から母語が日本語ではない外国籍の子どもを多く受け入れるようになり、話すことばは違っても子どもたちが主体的に関わり協力しあえるよう力をいれています。日本や世界の食べ物、地図、国旗に親しむことで、日本文化への意識・国際理解の芽生えが友だちどうしの楽しい体験であるよう活動しました。

2 活動スケジュール

日程	活動の内容 『保育者の問いかけ』や<アプローチ>	環境設定 (探究心への促し)	活動中の様子 (子どもの姿・声、先生との関わり)	振り返り (担当教諭の気づき)
1 7月上旬	保護者出身に都道府県を聞いてくる 『夏休みどこいくの?』	家に帰って親に出身地を聞いてきた子は、手を挙げて発表する	「ばーばは、新潟いるよ」→「うちは九州」→先生「九州のどこ?」→「うーん九州」、「大阪」「広島」等 「亀戸」「一之江」→先生「亀戸、一之江は東京だね」→「うちのじーちゃんも東京」	日本のあちこちの地名がでるが、「東京・区・町」の意味まででは理解していない。
	外国籍のおともだちに、その国の「こんにちは」を覚えてもらい言ってみる		「ニーハオ」「ナマステ」→「それ知ってる!」手を合わせて真似する子→先生「みんなで作ってみよう」→「ナマステ」「簡単だね」	インド、中国からの子どもが身近にいるからなのか、知っている子が多くいて驚いた。
2 9月上旬	食べ物の産地を探してみる 『どこからきてる?』	地図や地球儀を教室に展示 昼食時、保育者がパッケージに入ったままの食品を持参→食べ物の産地を探す 廃材で集まった箱の表示を気にかけてみるよう促す	先生「今日のミニトマトは熊本からきてる」→「うちのおじいちゃん熊本」→先生「このパンは名古屋、みんなの牛乳は北海道だって」→「北海道いったことある」→先生「食べ物は色々な場所からきてるね」「おうちで食べてるものはどこからきてるか教えて?」 ..... (翌日)「先生、うちの肉はアメリカだった」→先生「それは外国だね」「食べ物は日本の他からもきてるんだね」「アメリカはどこにある?」→地球儀で調べる「遠いね」「すごい!」 ..... (後日)集まった空き箱から産地をみる「先生これは?」と聞いてくる子がいる	日本から世界への広がりを実感し、地図や地球儀に興味をもつ子が多くなる。国旗に関心を示す子がでてくる。
3 9月~10月	稲の収穫→干す→脱穀→とうみ(炊飯)おにぎりを作る <日本の食文化について>	脱穀からとうみの流れをポスターで表示 お米一粒ができるまでを体験できるよう器材を用意	先生「みんながいつも食べているごはんは、何でできているか知ってる?」→「米」 稲穂を見せて先生「一粒一粒がごはんの一粒一粒になるよ」数えてみせて「25粒!」「25粒がごはんになるとこれくらい(指で小さな輪をつくる)」→「小さい」「赤ちゃんのごはん」→先生「みんなのお弁当のごはんは稲穂何本くらい?」→「20本」「100本」「1000本!」 ..... 脱穀・とうみ体験の後、白米でおにぎりを作って食べる「美味しいね」「これで稲穂何本だろう?」→先生「残さずに食べようね」	今年は米のできが悪いので、脱穀・とうみ体験が十分にできなかった。 後日、お弁当残しを先生に見せにきた子がいると、他の子が「稲穂1本分くらい残ってる」といってくる。

	日程	活動の内容 『保育者の問いかけ』や「アプローチ」	環境設定 (探究心への促し)	活動中の様子 (子どもの姿・声、先生との関わり)	振り返り (担当教諭の気づき)
4	9月30日(月)	保護者によるフィリピン、エジプト、中国の食べ物や遊びのお話 『日本と似てる？違う？』	(公開保育の続きでホールへ移動) 担任から日本について話した後、外国籍の保護者にプロジェクターを使って食べものやあそびについて発表してもらう	先生「〇〇君のママはどこ出身？」→ママ「大阪、おおきに！」→「大阪いったことある」「THANK YOU」→「それは英語だよ」 (日本について) 「うどん」「ラーメン」→先生「それは中国うまれの進化系」 先生「はないちもんめできる？」→「知らない」「できない」→先生「次は園庭でやろう」 ..... (フィリピンについてのお話) 「飛行機にのったことある」「ずっと夏ならアイスを食べればいい」「海がきれい」「行ってみたい」「おにごっこは同じ」お金(ペソ)をみせてもらい「ぼく20ペソもってる」 ..... (インドについてのお話) 民族衣装を着てきてもらい、手を合わせて「なますて」のご挨拶 「かくれんぼは同じ」「おにごっこ」 ..... (中国についてのお話) 「中国のおともだちは〇〇君と〇〇ちゃん」「飛行機でシンガポールにいった」「香港」「宮崎」 「なわとび」「また、おにごっこ」 ..... (最後に) 先生「同じあそびや似ている食べ物、違うものもいっぱいあったね」「言葉は違っても同じ人間だね」「地球儀の中でみんな一緒なんだね」	知らない国の写真をたくさん見せてもらい、その中に友だちが写っていることを喜んでくれた。すぐに地図や地球儀で場所を確認したり、「パッドみせて」と詳しく知ろうとする子がいた。 後日、「うちのママはハワイに行ったことがあるって」とフィリピンの海の話の家でした様子があった。
5	10月10日(木)	親子クッキング(生クリームからバター作る) 「食品の変化の気づき」 『どうやってできてくる？』	身近な食べ物の原料に興味・関心をもてるよう、自分で生クリームからバターを作る	先生「保護者の方と一緒にいつも食べるものを作ってみない？」「バターをみんなで作ってみよう」「バターは何でできてくる？」→「牛乳」「米」「わからない」→「先生も作ったことがないけど、牛乳から生クリーム、生クリームからバターができるらしいよ」 (グループごとに手伝ってもらいドリンクボトルに入れた生クリームを15分振り続ける) 「疲れた」「かたまった」「お父さんがすごいから見て」「できてきた！」「ありがとう」 (ドリンクボトルの液体を捨て、固まったバターを別容器へうつしなめてみる) 「おいしい」「あんまり味がしない」→先生「塩をいれてみようか」保護者「そういうことか」→「いつものバターになった」「家のよりおいしい」 (食パンを焼き、バターをぬって食べる) 「すごくおいしい」「そのまま全部たべたい」 保護者「家ではたべないのに、今日は美味しいとってたべられました」	保護者でも作ったことのある方がいなかったもので、全員が初体験のバター作りになった。親子で楽しんで作るうちに、グループの中で交代してシェイクするようになり、保護者が出来てない子を見つけ声をかけてくれた。それぞれ夢中になり、とても良い時間となった。保護者の方から「家でホイップに失敗したら、バターを作ってみます」との声があった。
6	10月上旬	運動会に飾る万国旗を作る 「世界に目を向ける」	国旗が描かれた地図や本を教室に展示	先生「運動会に国旗が飾ってあるのは見たことある？」→「知らない」「見たことある」→パッドでみせる→「知ってた」→先生「カラフルだね」→マジックを示して先生「色には意味があるんだって、緑は木とか森で青は海」→「日本の赤はなに？」→「太陽？」	国旗博士になった子がみんなに説明する様子が見られた。大きな自信となり友だちの輪がひろがった。 子どもたちは自分で国旗を選び熱心に書いていた。運動会でその万国旗をテントに飾り大変好評だった。